



菅内閣総理大臣が 町内各所を視察

「国が責任を持ち復興に取り組む」
決意を表明

3月6日、東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故の発生から10年、を前に、菅内閣総理大臣が、浪江町をはじめ、浜通り地域を視察しました。

菅総理大臣は、平沢復興大臣、内堀福島県知事や吉田町長が同行の下、はじめに大平山霊園（請戸地区）を訪問。浪江町東日本大震災慰霊碑に花を供え、黙とうをささげ合掌し、犠牲者の冥福を祈りました。

その後、世界最大級の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド」（棚塩産業団地内）に移動し、施設内を視察。

続いて「道の駅なみえ」を訪問し、避難先から帰還した人や県外から移住した人との座談会に参加しました。菅総理大臣を中心に車座になり、司会役の内堀知事の細やかな心配りもあいまって、和やかな雰囲気の中、進行。

座談会を終えた菅総理大臣は、「地元の人と移住してきた人の交流が進むことで、福島の復興に勢いがつき、明かりが見えてきたと強く感じた」と話し、地域の再生に向けた取組について、強く後押しする考えを表明しました。



大平山霊園から眼下に広がる請戸地区などについて、菅総理大臣に説明する町長



浪江町からは、町内に帰還し居酒屋を再開した大清水さん（左から3人目）と道の駅なみえ駅長の東山さん（右から3人目）が参加



「福島から世界に発信できる水素製造技術の確立に向け、頑張ってほしい」と菅総理大臣



座談会后、気軽に立ち話に応じる菅総理大臣



問 企画財政課 TEL 0240(34)3657